

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1076 2009年11月号

## 「木づかい推進月間・木の良さPR展」開催

【記事は2頁以降に掲載】



新聞記者の取材を受けている様子



「木づかい推進月間・木の良さPR展」

人と環境に優しい木材の特性や、地域の林業・木材産業の活性化、森林の多面的機能の発揮にも貢献する木材利用の意義について、国民の理解を高めることが重要となっています。

林野庁では、国産材利用の意義を広め、需要拡大につなげていくための国民運動として「木づかい運動」に取り組んでおり、平成一七年度から毎年一〇月を「木づかい推進月間」として集中的な活動を行っています。

平成二二年度においても、地



域材の生産・加工・流通に関わる事業者はもとより、関係省庁、地方公共団体や関連する団体・企業・NPO等も含めた幅広い人々の参加の下に、地域材の利用の意義に関する知識の普及及び情報の提供に必要な取組を全国的に行っています。

四国森林管理局においても、月間中の取組として「木づかい推進月間・木の良さPR展」を森林組合や企業、個人で木製品を作っている高知市在住の手島さんなど多くの方々にご協力をいただき、森林管理局一階

の「森林ふれあい館」において、一〇月一三日（火）から二五日（日）まで開催しました。

会場には、  
・四国森林管理局の公共工事等における木材利用取組事例  
・間伐材を利用したコピー用紙「木になる紙」のPR

「緑の島四国の森林共生を考える」

車座サミットin梶原の開催

〈企画調整室〉

一〇月二六日に高知県梶原町のゆすはら・夢・未来館において、「緑の島四国の森林共生を考える」車座サミットin梶原が、四国森林管理局、四国経済産業局、高知県、梶原町などの共催により開催されました。

サミットには、林業関係者、建設業者、地方自治体職員、地元企業の方等、約一六〇名が参加し、豊富な四国の森林資源を有効活用し、雇用創出と地域活性化に繋げるために、地域が連携して林業再生に取り組むこと等について、話し合われました。

第一部では、慶應義塾大学理工学部の米田雅子教授により「林業再生と産業創生」と題した基調講演が行われました。講演では、森林・林業の現状に触

・木製品（日常生活用品・木のおもちゃ）の展示  
を行い、間伐材をはじめとする国産材利用拡大に向けた積極的なPRに努め、期間中にはテレビ局や、新聞社の取材を受けるなど、多くの方々にご来場を頂きました。

れ、産業としては厳しい状況にあるが森林資源は充実しつつあり、林業再生に向けては作業道の拡充や施業集約化が重要であることについて説明がなされました。また、作業道等を作る際に林業と建設業が連携して取り



基調講演

組む「林建協働」や、木質バイオマスのエネルギー利用等についての提言がありました。

続いて、第二部の車座討論「緑の島四国の森林共生を考える」では、①梅原デザイン事務所の梅原真氏、②森昭木材の田岡秀昭代表取締役③徳島県上勝町の笠松和市長④愛媛県農林水産研究所の森信光夫林業研究センター長⑤高知県梶原町の中越武義町長⑥高知県知事の尾崎正直知事の六名から森林・林業の情勢や具体的な取組について紹介が行われました。

①梅原氏からは、高知県の森林率八四パーセントをモチーフにした「はちよんプロジェクト」②田岡代表取締役からは、山側が森林を積極的にアピールし、町側の人に森林に求めてもらう取組③笠松町長からは、上勝町の健康をテーマとした木材利用の推進④森林林業研究センター長からは、GISを用いた森林資源の管理⑤中越町長からは、環境モデル都市梶原のFSC認証やペレット工場といった林業・木材産業に関連した先進的取組⑥尾崎県知事からは、高知県の推進する産業振興計画における施業集約化や県産材の利用について、それぞれ具体的な事例を盛り込み



車座討論

ながら説明がなされました。  
引き続きの意見交換では、学生から、都会の人に森林の魅力を感じて貰う方法についての質問や、企業の方から、未利用資源の利用について様々な関係者と連携して取り組みたいといった提案が出される等、活発な意見のやりとりが行われました。  
最後に、四国の森林資源を循環利用し、林業の再生と森林環境の保全に繋げていくために、林業関係団体、産業界、行政等の関係者が連携し、多様で健全な森林整備の推進や森林資源を活かしたビジネス等に取り組みすることを旨としたサミット宣言を採択しました。

## 四国林政連絡協議会を開催

九月八日、香川県高松市において林野庁、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター、関西育種場、同森林農地整備センター、中国四国整備局参加のもと、第三五回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり会長の篠田局長から「この協議会は、関係機関が一堂に会し、森林・林業の諸課題について意見交換を行い、共通認識を持つ大変重要な場である。林業を取り巻く環境の変化の激しい時代ではあるが、山村を元気にするという共通認識のもと、協議会に参加されている皆様とともに取り組んで参りたい。」と挨拶がありました。

次に開催県である香川県瀧本環境森林部長から「今年も早明浦ダムの渇水や台風による土砂災害が発生したが、これらを防止するため水源かん養のための森林整備や治山事業の実施が重要である。各機関におかれては、協議会の場を利用して忌憚のない意見交換ができて



第 35 回林政連絡協議会

〈企画調整室〉

ればと考えている。」と挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告・審議、林野庁計画課小島首席森林計画官から林野庁の重点施策についての説明が行われました。その後、各機関から話題提供が行われ、平成二一年度補正予算に関連した新規施策の取組状況や、森林吸収量取引プロジェクト、林業と建設業との連携等の森林・林業を取り巻く新たな動向について意見交換が行われました。

## 秋の緑の街頭募金

### 鶯ヶ池中学校のうれしい協力

〈指導普及課〉

(社) 高知県森と緑の会主催による「秋の緑の街頭募金」が、一〇月一〇日、高知市中央公園を中心に商店街(帯屋町筋)周辺で行われました。

出発式の後、篠田局長、計画部長を初め街頭募金協力者約五〇名が参加し、道行く人に募金を呼びかけました。今回の街頭募金では、平成二一年度に緑の募金公募事業を活用している「鶯ヶ池中学校P



募金の様子(鶯ヶ池中)



募金の様子

TA」から街頭募金で協力したいと中学生七名が参加してくれました。

当日は、台風一過の秋晴れに恵まれ、子供からお年寄りまでたくさんの方の善意が寄せられました。

「緑の募金」は、ふせごう地球温暖化をスローガンに実施され、国内または海外で行う森林整備及び緑化推進の活動などの支援に活用されています。



募金の様子（鳶ヶ池中）

秋期緑の募金期間は、九月一日から十月三十一日まで行われました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

「工石山」、「飯野山」で「森林・林業体験  
交流促進対策調査」の中間報告検討会を開催  
〈指導普及課〉

平成二一年度から、嶺北森林管理署管内の「工石山地域」及び香川森林管理事務所管内の「飯野山地域」を対象として実施している「森林・林業体験交流促進対策調査」の中間報告検討会を、工石山地域については、一〇月二三日に高知市工石山青少年の家において、飯野山地域については、一〇月二八日に丸亀市野外活動センターにおいて開催しました。

この調査は、比較的都市部に近く、体験活動の場としてふさわしい両地域において、安全で効率的な学習体験活動を行うための全体構想、学習・体験プログラム等の作成、取りまとめを行うものです。その取りまとめに当たっては、有識者や教育関係者、地域の活動団体等の方をメンバーとする検討会を開催し、その意見を反映させることとしています。中間報告の内容について、

委託調査業務の受託者である（社）全国森林レクリエーション協会から説明がありました。「工石山地域」の検討会では、「利用を進めていくためには、工石山の特徴（美しい花や鉱山跡の存在、太平洋まで注ぐ鏡川の水源など）を活かしたコンセプトを持たせることが必要」、「障害者の方も登山から、それに対応したプログラム



工石山地域の検討会の様子

ラムも作成すべき」、「単に森林学習だけで終わるのではなく、地域の小学校等と交流することも大事」などといった意見が出されました。

また、「飯野山地域」の検討会では、「現状では、健康管理を目的とした六〇歳以上の方の利用が多いことから、その方たちと小学生等のための利用を区別し、ハード面・ソフト面の整備をする必要」、「利用を進めていくために掲示板を設置し、タイムリーな情報を発信するとともに、掲示板を通して小学生等の交流が図られるよう、書き込むことができるなどの工夫が必要」、「小学生等がターゲットであればトイレの設置は必要であり、また、救急安全体制の整備も重要」などといった意見が出されました。

さらに、「工石山地域」及び「飯野山地域」共通して、「海に近いことが特徴であることから、山・里・海のつながりという広い視点で、農業・漁業等とも連携した取組が必要」、「副読本の作成が提案されているが、わかりやすい内容及び分量にする必



飯野山地域の検討会の様子

要」、「学習資機材の整備に当たっては、現在・過去の道具の歴史、使い方から後片付けまでを含めた教育の視点が必要」との意見が出されました。今回出された意見については、一二月に行う予定としている最終報告検討会で検討していくこととしています。

シニームズ  
106

地

域

の

声

## 森を守る舫いとなつて

フォレストアースかがわ

理事 増田 孝夫

<http://shir.in.ashi-ta-sanuki.jp/>



「フォレストアースかがわ」はフォレストアーススクールの履修生の有志で二〇〇五年に結成された森林ボランティア団体です。フォレストアーススクールで得た知見を生かしながら、香川の環境保全や森づくりに貢献することを目的に活動しています。「フォレストアース」とは本来「森林管理官」を意味しますが、ここでは私たち「かがわフォレストアース」が集まったという意味での複数形のフォレストアースに「森の仲間たち」という意味を込めています。そして、その仲間たちが増えていくこと、私たち一人ひとりの市民が森林保全

のために繋がっていくこと、すなわち森を守る人々の「舫い」となつて地域の自然環境の保全に貢献したいと考えています。現在、県下二カ所に森づくり

活動のフィールドがあり、一つはまんのう町にある人工林（県有林約五ヘクタールエリア）で森林の手入をしています。V 齢級のヒノキ林で主に除間伐などの作業です。もう一つは三木町内のヒノキとスギVI 齢級前後の人工林（民有林約五ヘクタールエリア）です。ここでは間伐が主な作業と



記念植樹



フォレストアースのメンバー

なつています。

また、私たちはフィールドワークをベースに、森林環境教育活動分野にも取り組んでいます。

二〇〇七年度より実施しているものに「森林カレッジ」があり、これは通算一〇回を数えます。座学あり、フィールドワークありで、内容は時の話題性を取り入れたユニークなもので、毎回多くの方にご参加いただいています。また、家族で参加する「交流の森」は森林の中で行うワークショップです。参加者に間伐などの森づくり体験してもらい、伐った木を使って何かを作ろうというもので、二〇〇八年に実

施した「交流の森 in ことなみ」は、会の活動の今後につながるものでした。

そして、「いろり工房」との協働では県下小学校からの依頼による出前授業を行っています。

これは身近にある自然素材を使って何か作ってみようというワークショップです。その中から子供達は自然に対する想いを養い、モノをつくることの楽しさを学んでいます。竹ぼうき、布ぞうり、木の枝を使った小物など、子供達は素朴な工作に熱中します。さらに福祉施設では夏のイベント（流しそうめん）の竹を使った会場設営などの協力をしています。



間伐体験

このように森林づくりを中心に、会員のもつスキルを生かして関連分野へも活動を広げています。私たちの住む讃岐平野は、おむすび形の山々が瀬戸の島々とながり美しい風景をつくります。県土は四国全体の一割、森林面積においてはその一割にも及びませんが、山には二・七万ヘクタールの人工林と五・五万ヘクタールの自然林があります。阿讃山脈を背にいただき、雨が少ない瀬戸内気候はヒノキの植生に向いていると言われます。私たちはこの里地の風景を守り、山々を次の世代へつないでいきたいと思っています。

（注）フォレストアーススクール：県民参加の森林づくり活動のリーダーであり、森林環境教育や体験学習の支援者となる「かがわフォレストアース」を養成するために、香川県では二〇〇二年度からフォレストアーススクールを開講しています。

「フォレストアースかがわ」は、平成二〇年度「四国山の日賞」（森林環境教育活動の推進部門）を受賞されました。

## 四国森林管理局から二名が発表

第六〇回日本森林学会関西支部等合同大会開催(徳島市)

〈指導普及課〉

第六〇回日本森林学会関西支部、日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会が、一〇月一六日、一七日の二日間、徳島市(徳島大学工学部外)で開催されました。

一日目は、徳島県立博物館の長谷川専門学芸員から、「四国遍路の歴史―遍路文化のあゆみをたどって―」と題した特別講演があり、遍路文化の世界遺産への提案に対する課題として、四国遍路の成立の背景の複雑さを取り上げ講演されました。(四国遍路の始まりについては、史料が殆どなく、確かなことはわかっていないとのこと)

二日目は、経営・林政や造



秋山所長

林など九部門での研究発表が行われました。四国森林管理局からは、四万十川森林環境保全ふれあいセンターの秋山所長が、「教科書補完プログラム」の作成(教科書とリンクした森林環境教育プログラム)を、また、森林技術センターの鷹野森林技術専門官が、「ツリープロテクターを使用した低コスト造林の検討について」の発表を行いました。

こうした技術開発等の成果については、国民視点に立った業務の実行等の観点から、本大会をはじめ、今後も積極的な情報発信に努めていくこととしています。



鷹野森林技術専門官

## 職員が一日先生に高知市立愛宕中学校で

〈指導普及課〉

一〇月二三日、高知市立愛宕中学校において、「地域の良さを知る道徳授業」が開催されました。

これは、生徒に、自分たちの住んでいる地域の良さを知ってもらうことを目的に企画されたもので、地域医療や地域貢献、環境保全などに精通している医師や保護司など八名が講師となつて、学年別に授業を行ったものです。

このうち、中学校から要請があつた二年生の二クラス(七三名)を対象に、指導普及課職員が「森とのつながり」と題して授業を行いました。生徒は、最初は堅い表情でしたが、職員から生徒たちに「校庭の木の名前を教えてください」と、逆に質問をしたところ、とまどいながらも友達と相談しながら答え、後半はリラックスしていました。

授業終了後に、教職員と講師、保護者などで反省会を行いました。教職員からは、地域に在住している身近な講師から、生徒が



授業の様子

様々な分野の話を聴くことの意義や大切さなどが話されました。講師からは、生徒たちの聴く態度の良さや質問の内容などが話されました。保護者からは、学校、地域が一体となった取組が今後とも継続されるようにとの要望が述べられました。

今後とも、地域への貢献に資するとともに、森林環境教育の推進を図るため、今回のような学校からの要請に積極的に協力していく考えです。

## 各地の

たより



### 今年も「林業

### (下草刈り)体験

〈ふれあいセンター〉

九月二七日、四万十町の古屋山国有林において、ボランティアによる「林業(下草刈り)体験」を実施しました。今年は、地元の昭和中学校と四万十高校からも先生・生徒一四名、地域の住民など合計二十七名の参加がありました。

現地は、平成一六年度に大道マツ自然再生事業試験地(約一二〇〇坪)を設定していますが、発芽成長した幼齢のマツを守り育てるため、毎年ボランティアを募って下草刈りを実施してき



下草刈りの様子



森林教室の様子

一〇月二一日、松野町立松野西小学校四年生二一名を対象に、今年度第五回目の森林教室を実施しました。

一学期には校庭の樹木を学習済みですが、今回は、地元の滑床渓谷を訪れ、校庭にはない樹木、滑床山周辺で見かける樹木など約二〇本を学習しました。

「ドングリ見つけ！」  
滑床渓谷で樹木学習  
〈ふれあいセンター〉

ました。現在、一番成長しているマツは約二mに達しています。

作業は、中高生が地域の方々の間に入り、指導を受けながら進めた結果、予定通り終了することができ、先生からは「生徒達は貴重な林業体験となった」との感想を頂きました。

遊歩道を進みながら職員が一本ずつ樹木名の由来や葉の特徴などを説明すると、熱心にワークシートに書き留め、途中で聞き漏らしたりすると、「もう一度！」と意欲的に取り組んでいました。さらに、この時期の滑床渓谷には、森からの贈り物のドングリがいっぱいです。学習の合間には大喜びで拾っていました。

学校に帰ってからは、種子の学習をしました。

始めに、滑床渓谷で見つけた種子の絵を描いたり、思い思いの名前を付けました。その後、顕微鏡で実物の種子を観察したり、樹木がさまざまな工夫をして種子を移動させることなどを説明すると、「風で飛ぶだけではないことが分かって、ビックリした」との感想があり、種子への関心が高まったようです。

最後に、ラワンの種子模型を作って飛ばす体験をして、この日の森林教室を終了しました。

「根上がり大将」と対面  
〈ふれあいセンター〉

当センターは、例年、四万十市立後川中学校の森林環境教育を支援しています。一〇月二二日、森林散策と樹木学習を目的



根上がり大将の前で（後川中）

に、四万十町の市ノ又渓谷風景林をフィールドに実施しました。

登山口に集合した全校生徒二七名は三班に別れて出発、職員から日本固有種のスギやヒノキ、間伐の説明を聞きながら進みました。二〇分程歩くと、ヒノキの巨木「根上がり大将」に到着し、友達同士で手をつないで胸高周囲約六〇〇cmを体感しました。その後も遊歩道沿いの広葉樹を中心に、葉の特徴や用途、分布などを学習しながら一時間三〇分の「ゆったり森林浴コース」を終了しました。

下山後、生徒代表から、「色々な樹木の説明を聞くことができ、勉強になりました」とお礼の言葉がありました。

今回は、モミ・ツガ群落を訪れる「巨木探索コース」にチャレンジしてほしいものです。

ウッドフェスティバルに参加  
〈香川森林管理事務所〉

一〇月三日、四日の両日、サンメッセ香川で二〇〇九ウッドフェスティバルが開催されました。このイベントは、木材の利用促進を目指して行われるもので、当所も毎年参加しています。屋内会場には、香川県産ヒノキの原木や製品が展示され、屋外には県内外の木材関係業者や県などからさまざまな木製品の販売や展示のテントが立ち並び、二日間多くの来場者でにぎわいました。

当所は「森の恵みにふれて」というテーマのもと、つるかご編み教室と香川県内の国有林を紹介するパネル展示を行いました。

つるかご編み教室は職員が講師となり、子供から大人まで約五〇人が参加しました。つる植物は林業にとっては邪魔者扱いされますが、使い次第でおよしやれなかができます。かごに使うつるは太さや長さ、色合いが様々なので、参加者はそれらを上手に組み合わせながら、かごを作成していました。つるかご編み教室は毎年人気があり、参加者の中には



つるかご編み

「去年参加してよかったので今年も来ました」という人もいました。個人差はありますが、難しいところや失敗した場合は職員に助けられながら、一時間〜一時間半ほどでかごを完成させていました。

つるかご編み教室を実施したテント横には、香川県内の国有林を紹介するパネル展示を行いました。香川県には飯野山（讃岐富士）や屋島など、有名な観光地にも国有林がありますが、国有林であることはあまり知られていないので一般の方にPRするよい機会になりました。

つるかご編み教室の際、アンケートを実施しましたが、回答者の半数以上が香川森林管理事務所を「知らない」と回答しており、まだまだ知名度が低い

こと、所のPRが不十分であることを痛感しました。今後もっと香川所のPRに取り組んでいく必要があると感じました。

最後に、つるかご編み参加者に協力していただいた「緑の募金」を管理団体の「かがわ水と緑の財団」に手渡し、イベントを終了しました。



緑の募金贈呈

## 遊々の森で森林教室

〈香川森林管理事務所〉

一〇月二三日、屋島国有林内に設置した「遊々の森」で、屋島東小学校三・四年生、五三名を対象として森林教室を行いました。

当日は天気にも恵まれ、絶好の森林教室日となりました。屋島国有林は、ちょうどどんぐりが落ちる季節に入り、児童た

ちは遊々の森への道すがら、たくさんのだんぐりを拾っていました。

森林教室では、まず常緑広葉樹と落葉広葉樹の葉を比較しました。実際に常緑広葉樹と落葉広葉樹の葉に触って、厚さや色、手触りなどの違いを体験しました。また、落ちた葉が小さな動物の住処になったり、分解して養分になったりすること

を学習しました。

次に、屋島でとれる五種類のどんぐりについて、違いを比較しました。一口にどんぐりといってもその形は樹の種類によって様々で、それぞれ特徴があります。丸くて大きなクヌギや細長いコナラのどんぐりを見ながら、「これ何のどんぐり？」と口々に質問していました。



出来上がった基地で



遊々の森で森林教室

森林教室のあとはお待ちかねの基地づくりと遊具遊びの時間です。あらかじめ森林管理事務所の職員が組んでおいた骨組みに、次々にヒノキの枝葉をかぶせたり、引っかけたりして二〇分ほどで三つの基地が完成しました。

基地が完成したあとは、めいめいが作った基地を改良したり、遊々の森に設置されているブランコやハンモックで遊んだりしました。中には遊々の森で拾ったどんぐりの種類を尋ねる児童や、病気で参加できなかった友達へのおみやげを探している児童もいました。

屋島はこれから紅葉の季節に入りますが、遊々の森での経験が、身近な自然の変化を感じ取るきっかけになってくれたら、と思います。

## 地域子ども交流会で木の動物づくり

〈高知中部森林管理署〉

九月二六日、県立香北青少年の家に地域子ども交流会が開催されました。この催しは香美市・香南市・南国市の小学三年生から六年生までを対象とし、自然体験を通じて自分たちの地域の持つすばらしさを知ることが目的として毎年行われています。

当署はプログラムの中で、森林についてのお話と木工クラフトづくりを担当しました。

まず、絵や写真を見ながら森林の持つ公益的機能について話をし、その後、サクラやミズメの枝を使ってタヌキの置物づく



木工クラフト

りに挑戦しました。三年生には刃物の使用は難しいのではないかと心配していましたが、スタッフの丁寧な指導のもと、怪我もなく思い思いの姿のタヌキを作り終えることができました。最後にドングリなどの木の実にタヌキを飾り付けると、秋らしいすばらしい作品ができあがり、みんな満足した様子でした。

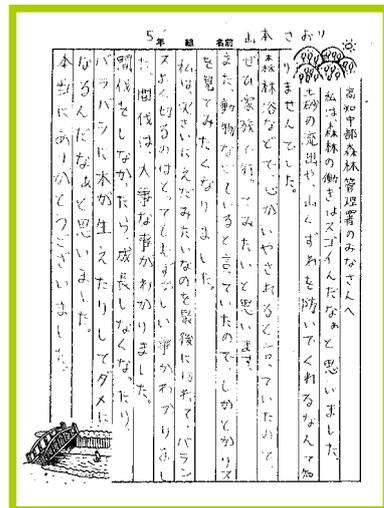
## 間伐の大切さを学習

〈高知中部署〉

一〇月五日、香美市立大宮小学校五年生三二名を対象に森林教室を行いました。

教室の前半では、森林の働きや間伐することの重要性について絵や写真を見ながら話をしました。

後半はこの話をふまえて実験を行いました。発泡スチロール板に差し込んだスギの枝を間伐しようとする山の植栽木にみたくて、実際に子どもたちなどの木を間伐するのがいいのか選んでみてもらいました。また、間伐などの手入れが行き届き、下層植生が育っている森林モデルの土壌と、間伐が遅れている森林モデルの土壌とで土砂の流出量を比較する実験



では、子どもたちは流れ出る土の量の差に驚いていました。森林教室後に感想文をいただくなど、森林率八七%を誇る香美市の子どもたちにとって、森林がより身近なものとなり、興味を持ってもらえたことを実感しています。

### みんなの力で三嶺山系の貴重な自然林を守ろう

〈高知中部森林管理署〉

一〇月四日、当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、三嶺山系においてシカの食害から森林を守るための作業が行われました。

今回で九回目となるこの作業には、物部川流域の住民の方々を中心に総勢百三〇名の参加がありました。当日は、三嶺の貴重な植物の

再生を図るためにネットの柵を張る作業と、登山道周辺のモミの木などをシカの食害から守るため一本一本の木にネットを巻き付ける作業を合計六箇所に分かれて行いました。参加者はまず、柵

を張るために必要な資材を持ち片道一時間三〇分かけて山道を登って行かねばならず、苦勞していました。しかし、秋晴れのもと、三嶺の頂上を眺めながらの作業は、山の清々しい風を受けて、とても気持ち良いものでした。貴重な植物の再生を願い、また、一本でも多くの木をシカの食害から守ろうと、皆さん手際よく作業を進めていました。

標高の高い所での作業であ



シカに食べられないようネットを巻く

り、今回初めて参加した方からは、「急な山道を資材を持って登るのは大変だったけれど、次回もぜひ参加したい」との感想を聞くことができました。今回の作業により、すでに設けたものも合わせて柵が三〇箇所（牧野植物園設置の四箇所含む）設置され、ネットを巻き付けた樹木は三、一五〇本余りになりました。

今後、シカの食害から森を守る作業は引き続き行っていく予定です。皆さんも、森を守る仕事をしてみませんか。三嶺に一度いつてみたいと考えている方も、ぜひ参加してください。

### 協働の森づくり事業のイベントに協力

〈高知中部森林管理署〉

一〇月三日、香美市香北町で「ルネサス フォレストランド二〇〇九」が開催されました。今年で三回目となるこの催しは、香南市にあるルネサステクノロジー高知事業所と高知県が協働の森・パートナーズ協定を締結し、森林の再生と地域との交流を目的として行われています。

当日は好天に恵まれたものの、連日の雨で足元が悪かったため、行事は会場を屋内に変更



木の葉当てクイズ

して行われました。

当署は、木の葉当てクイズと木工クラフト作成コーナーを担当しました。木の葉当てクイズでは、スギやマツなど一般の方にもなじみのある樹種をはじめとして一七種類の木の枝を準備しておき、参加者にそれぞれの名前を回答用紙に記入していただきました。参加者たちは首をかしげながらもヒントを頼りに次々に回答欄を埋めていき、森林をつくる木々の種の多様性を感じ取っていただけました。成コーナーでは子どもも楽しめるように、当署手作りのウサギの置物付き写真立てキットを準備していききました。これには「手がこんでますね」「来年の夏休みの宿題の参考にします」などの感想をいただきました。

他にも丸太切り競争や、子ども向けに紙芝居などのプログラムもあり大盛況のうちにイベントを終えました。

### 参加することの意義を実感 六四回本山町職域体育大会

〈嶺北森林管理署〉

本山町職域体育大会が一〇月一八日に開催され、当署も、四国局や他署からの応援を得てどうにか人数を集め今年も参加しました。

今年の大会は、昨年の一チームから一三チームとなり、おおいに盛り上がった大会となりましたが、我が森林管理署チームは最下位と残念な結果となってしまいました。アイスクリームの早食い競争では、涙をながしながらも食ら



アイスクリーム早食い競争

いついた人や、リレーで追い抜かれ悔しさをにじませていた人などそれぞれ一生懸命にやっていたが、層の薄さは何ともしがたく、最下位の競技が続く結果となってしまいました。

その鬱憤をはらしたのが、綱引きで、なんと一六秒の秒殺で相手を粉砕してしまいました。我がチームの誇らしげな雰囲気と相手チームの「あ然」とした姿は印象的でした。

今年の大会ほど、「参加することに意義がある」を実感したことはありませんでした。各職場を回って参加を呼びかける「町長の熱意」。参加しようよと職員一人ひとりに声をかける「署長の粘り」。これらに意気を感じて動いた「治山課長の行動力」。こうした人たちがいるから六四回も続いているんだと感じました。

そして、最後の反省会で、「こうした催しに参加し、地元で森林管理署の名前を印象づけることは大事ですね。また呼んで下さい」と言ってくれた他署から参加した若者。

快晴の秋空のもと汗をかけた爽快感とともに、心をあたたくしてくれた若者の言葉に感謝しながら、職域体育大会に参加した嶺北森林管理署の一日は終わっていききました。

シリーズ 3 よついでと愛媛森林管理署へ



シャクナゲ

愛媛県立自然公園皿ヶ嶺連峰の西の端に位置する山が、当署（松山市朝美）から南西に車で四〇分の伊予市「谷上山（四五五・五m）」です。

この麓に造られた全国屈指の人造湖「大谷池」の水は、西日本最高峰「石鎚山（一、九八二m）」の麓、面河ダムから導水管で運ばれ、伊予市・伊予郡松前町に広がる約一、〇〇〇haに及ぶ農地を潤しています。

また、この一帯の国有林は大谷池風景林に指定され、一



大谷池より松山平野 秋

部は「えひめ森林公園」として愛媛県により整備されており、年間を通して里山歩きを楽しむ人々で賑わっています。

次に紹介するのは、皿ヶ嶺連峰の東の端、連峰最高峰の東温市「石墨山（一、四五六m）」です。松山市から東に、車で一時間三〇分で登山口の唐岬ノ滝入口に着きます。

この石墨山から西へ稜線を進む皿ヶ嶺（上林峠）までの登山道（約一〇km、八時間）



東温アルプス登山道

は、近年「東温アルプス」と称し、東温市の登山愛好家「さくら山行会」の方々によるボランティアで、登山道の刈払いや看板設置等の整備がされており快適に歩くことが出来ます。

また、登山道の周囲はブナやモミ・ツガなどの天然林も多く、シャクナゲの花や木々の合間から瀬戸内の景色が望めるとあって、県内外から多くの登山客が訪れています。

石墨山から稜線を東に進めば、石鎚山につながります。

これらの山々は松山平野の南を額縁のように堅め、山に行かずして暮らす人々にも目に優しく、春夏秋冬森の恵を



梅ヶ谷山より石墨山後方石鎚山

静かに提供しています。

現在、東温アルプスと称されている登山道は、皿ヶ嶺の西の麓にある松山市浄瑠璃町から石鎚山への山岳信仰の修行の道として、多くの修験者が行き来をしていた歴史ある古道です。

修験道の根本道場として栄えた四国霊場第四七番札所「八坂寺」では、明治時代まで一〇〇名もの修験者を連れて修行を行っていました。

今では、山岳信仰としての利用はありませんが、千年を越える年月をかけて人々が踏み固めた土は、今もなお道型を残し、新たな登山者の道先案内をしています。